

Ⅶ 県土・まちづくり

1 次の世代に引き継げる持続可能な県土づくり

(1) 持続可能な都市づくりへの誘導と都市計画制度の活用

2007年度は、かながわ都市マスタープランを抜本改定するとともに、計画的な都市政策の推進を図るため、線引き（区域区分）（*1）の見直しに向けた準備を進め、市町や庁内関係室課など関係機関との調整を図りました。また、地籍調査事業実施市町の拡大を図り、公共事業の効率化、コスト縮減、災害時復旧の迅速化を図るため、一筆ごとの土地の諸元の明確化に取り組んだほか、環境負荷を軽減するため、下水処理場内に太陽光発電設備を整備し、処理場内の電力として使用しました。

2008年度は、線引き見直しの手続きとして、公聴会や都市計画案の縦覧などを進めるとともに、地籍調査事業を推進していきます。（県土整備部）

(2) 効率的な都市基盤整備を支える体制の充実

2007年度は、総合評価方式による入札制度を試行し、公共工事の品質確保及び建設業者の健全育成の充実に取り組むとともに、総合評価方式のさらなる効率化及び円滑化を図るため、運用ガイドラインの見直しを行いました。

2008年度は、引き続き総合評価入札方式による入札制度を試行します。（県土整備部）

(3) 道路施設の適正な維持管理

2007年度は、道路交通の安全性、快適性を確保するため、舗装・安全施設などの適正な維持管理を行いました。また、道路施設を将来にわたって適切に維持していくために、橋りょうの点検を行うとともに、地域住民の道路美化意識の啓発活動として、「きれいな道づくり活動」などのボランティア活動を実施しました。

2008年度も引き続き、橋りょうの点検を行うなど道路施設の適正な維持管理を行っていきます。（県土整備部）

(4) 自然環境に配慮したまちづくり

2007年度は、金目川の多自然護岸の整備や笹子屋沢などの「スリットタイプ」のえん堤（*2）の整備を行い上下流の連続性を確保するなど、小動物などの生態系に配慮した施設づくりを推進しました。また、県民の憩いの空間となる都市公園において、新たな利用者ニーズに対応した再整備をはじめ、公園施設のユニバーサルデザイン（*3）化、防災機能の強化などにより公園機能の充実を図るとともに、下水処理場内の処理施設上部への広場の新設や拡大に努めました。

三浦半島国営公園の誘致活動を推進するとともに、「緑の回廊構想」の実現に向けたケーススタディを実施するなど、緑の保全と創出に取り組みました。

さらに、市町、県民、NPOや民間事業者などとの協働・連携により、邸園を活用した「邸園文化祭」などの事業を実施し、近代建造物と邸園を保全・活用した地域づくりを推進しました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを進めます。（県土整備部）

(5) 山・川・海の連続性をとらえたなぎさづくり

2007年度は、山・川・海の連続性をとらえた広域的な土砂の流れを調査・研究するとともに、河川においては置き砂（*4）や堆積土砂（*5）の移動を実施し、海岸においてはダム浚渫土砂や河川内堆積土砂による養浜を主体とした砂浜の回復・保全に取り組みました。

2008年度も引き続き、調査・研究などを進め、流域や沿岸全体での適正な土砂管理をめざします。（県土整備部）

2 総合的な交通ネットワーク形成の推進

(1) 地域の活力を支える総合的な交通ネットワークの形成

2007年度は、横浜市西部・県中央部から東京都区部への速達性の向上が図られる、神奈川東部方面線の整備を計画的に推進しました。また、乗合バス事業の需給調整規制廃止に伴う生活交通の確保に向け、地域協議会における協議結果などを踏まえて実施される生活交通確保対策に対し、必要な支援を行いました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを行います。（県土整備部）

(2) 多様な交流を支える道路網の整備

2007年度は、県土構造の骨格となるさがみ縦貫道路など、自動車専用道路網の整備促進を図る

* 1 線引き （区域区分）

都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分することにより、人口増加に対して市街化区域の重層的な拡大を計画的に制御し、計画的な市街地形成や公共投資の効率化を図る都市計画の制度です。

* 2 「スリットタイプ」 のえん堤

えん堤本体に切れこみ（スリット）を設けることにより、平時には水や土砂を自然に近い形で下流に流し、大雨などの非常時には大きな岩などの土石流を止める構造のえん堤です。また、魚や水にすむ昆虫、動物などが、えん堤の上流と下流を往来しやすいなどの特色もあります。

* 3 ユニバーサル デザイン

製品や建物、環境を障害、年齢、性別、国籍など、人がもつそれぞれの違いを超えて、あらゆる人が利用できるようなはじめるから考えてデザインするという概念。「あらかじめバリアを取り除いてデザインを行う」という意味では、バリアフリーの概念を包括する考え方です。

* 4 置き砂

河川内にダム湖のしゅんせつなどで発生した土砂を置き、出水時に流下させ、河床低下の軽減や、河川環境の改善、海岸への土砂供給などを期待するものです。

* 5 堆積土砂

ダム湖や河川の中で、上流からの土砂供給により、堆積した土砂です。

*6 交通のボトルネック

渋滞の著しい交差点や踏切、車線数の減少区間など、円滑な交通の流れが、局所的に妨げられている地点または区間をいいます。

とともに、インターチェンジに接続する道路の整備を進めました。また、都市や地域内の連携を強化する幹線道路網の整備を進めるとともに、地域分断・交通のボトルネック(*6)を解消するための橋りょうの整備や、鉄道との立体交差化に取り組んだほか、東京湾口道路については、地元地域の機運が高まるような取組みとして、地域連携をテーマとした調査検討を実施しました。

2008年度も引き続き、多様な交流を支える道路網の整備に取り組みます。(県土整備部)

3 美しく住みやすい住まい・まちづくり

(1) みどり豊かで美しいまちづくり

2007年度は、環境に配慮したうるおいのあるみち空間の形成をめざし、道路における街路樹及び植栽帯の維持・再整備などを行い、適正な維持管理を推進するとともに、障害者、高齢者などすべての県民が安心して快適に生活し自由に移動できるように、段差のない幅の広い歩道の整備や、無電柱化を実施しました。また、「神奈川景観条例(2006年12月施行)」に基づき、「神奈川景観づくり基本方針」を策定するとともに、同条例に規定されている「推進体制の整備」の一環として、多様な主体により景観づくりを進めることを目的に「かながわ景観会議」を設立しました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを行います。(県土整備部)

(2) 快適な生活を支える上・下水道の整備・充実

2007年度は、相模川・酒匂川流域下水道の各処理場の整備と老朽化した施設の改築・更新などを行いました。また、下水道施設の有効活用として、下水処理場の処理施設の上部を利用した広場を新たに酒匂川流域下水道右岸処理場に整備するとともに、既存の広場についても区域の拡張を行いました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを行います。(県土整備部)

(3) 地域の個性を生かした市街地の整備

2007年度は、地域のもつ豊かな自然や個性を生かしながら、土地区画整理事業や市街地再開発事業などの手法を活用した既存市街地の再構築などを進め、市街地の整備を促進しました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを行います。(県土整備部)

(4) 豊かで多様な住まいづくり

2007年度は、改正建築基準法に対応するため、建築指導課内に構造指導担当を設置し、建築確認における構造審査への助言・指導などを実施し、適正かつ円滑な審査ができる体制を整備しました。また、賃貸人(家主)が高齢者の民間賃貸住宅への入居を拒まない住宅を登録し、その情報を、高齢者をはじめ県民へ提供する「高齢者円滑入居賃貸住宅登録制度」の普及を図るとともに、登録制度を実効あるものにするために、(社)かながわ住まい・まちづくり協会が事業主体となり、貸主研修会や高齢者のための住まい探し相談会を開催しました。また、住宅に困窮する子育て世帯や低額所得者などに対して、低廉な家賃で住宅の供給を図るため、県営住宅の建替え、全面的改善、個別改善などを実施しました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを行います。(県土整備部)

*7 神奈川口構想

羽田空港の再拡張・国際化の効果を生かす京浜臨海部や県全体の活性化につなげるため、多摩川を渡る連絡路を整備するとともに、空港の対岸地域に、再拡張・国際化に対応した新たな交流拠点形成する構想です。

*8 富士山ライジングプロジェクト(仮称)

富士箱根伊豆地域の多彩な観光資源を生かし、国内外からの観光客誘致を推進するため、山梨・静岡、神奈川の三県で共同して取り組むべき施策・事業を集約・整理したプロジェクトです。

*9 上下流間交流事業

都市地域住民が水源地域を訪れる機会を増やし水源地域住民との交流、連携を促進する事業です。

4 地域の特性を生かした地域づくり

(1) 特色ある地域づくりの総合的な推進

2007年度は、神奈川や首都圏の利用者にとって望ましい羽田空港の再拡張・国際化と、その効果を県全体の活性化につなげる「神奈川口構想」(*7)の実現に向けた取組みを推進するとともに、京浜臨海部のコンビナートの高度化などに向けた民間企業の取組みへの支援や、ロボット関連企業の掘り起こし、マーケットの創出・拡大に向けた取組みなどを行いました。

また、2009年の横浜開港150周年を迎えるに当たり、神奈川から開港・開国という観点から、イベントを県立施設などで実施しました。

第2回山静神サミットにおいては、「富士山ライジングプロジェクト(仮称)」(*8)の策定に合意するなど、県域を越えた連携事業を推進しました。また、花や水にちなんだ市町施設整備事業に対する支援に取り組みました。

さらに、水源地域の活性化を推進するため、市町村が行う交流施設整備に対して助成するとともに、地域資源を生かした自然体験教室や上下流間交流事業(*9)などを実施しました。

* 10 モビリティ・マネジメント

一人ひとりのモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした持続的な一連の取組みです。

また、酒匂川流域の地域住民と酒匂川の治水史を紹介する案内板を作成するとともに、地域内に立地する企業と協働でモビリティ・マネジメント（*10）に取り組みました。

このほか、まちあるきなどにより地域の魅力を再発見する「相模湾アカデミー」などを、NPOなどと協働して実施するとともに、三浦半島の地域資源を紹介したガイドブックの作成など、多彩なツーリズムの展開や魅力の情報発信を図りました。

リニア中央新幹線の建設促進と県内への停車駅設置については、「リニア中央エクスプレス建設促進神奈川県期成同盟会」による関係機関への要望活動などを行いました。また、相模線の複線化の早期実現に向けた調査検討などを行うとともに、東海道新幹線新駅の誘致に向けた要望活動やツインシティの特定保留区域設定に向けた都市計画の素案を作成しました。

さらに、大涌谷周辺で交通社会実験を実施するとともに、箱根湯本駅及び周辺地区において、国道1号の横断デッキなどの整備を進めたほか、真鶴港など4港を拠点とした、それぞれのみなとまちづくり協議会によるイベントなどの開催を行い、みなとの資産を生かし地域活性化を推進しました。

2008年度も引き続き、同様の取組みを行うほか、第3回山静神サミットの開催県として取り組みます。
(政策部、県土整備部)

(2) 市町村が主体的に進めるまちづくりなどの支援

2007年度は、地域県政総合センターなどを中心として8つの地域ごとに「地域づくり推進プラン」を策定し、県と市町村、県民などの協働・連携の下に地域の課題解決や魅力ある地域づくりの推進を図りました。

2008年度も引き続き、プランの進捗状況の検証などを通じて地域課題の解決や魅力ある地域づくりの推進を図ります。
(政策部)